

2017年8月13日(日)
バードウォッチング入門⑤
 ~サギを観察しよう~

夏になると、干潟や水田でたくさんのサギが群れているのを目にします。これは繁殖が終わった成鳥に加えて、巣立った幼鳥も混じっているため、繁殖期に比べて数倍に増えています。園内の干潟にもたくさん飛来するため、どのような種がいるのか観察し、生態を学びました。



お盆の真っ最中の暑い中、参加して下さった4名のみなさま、ありがとうございました。サギは夏が観察の好期です。



レクチャーではイラスト、写真、ボイスペンを使って説明します。サギは身近な存在ですが、特に白いサギはお互いによく似ています。



野外に出る前に観察ホールから干潟の様子を見えます。アオサギは全長1m近くある鳥ですが、はく製を見ると意外に小さく感じます。



実は行事の時間帯が満潮の時間に当たったため、水門を操作して、園内は人工的に干潮にしています。遠くにサギが群れていました。



野外に出発です。淡水池の浮き島にいるアオサギが目につきました。



このアオサギはほとんど一日中浮き島の上において、淡水池の主と言える存在です。



もう繁殖は終了する時期ですが、まだホオアカがさえずっていました。



5月のこの行事でも同じ場所でさえずっていたので、同じ個体かもしれません。



干潟観察舎は風が通り抜けて快適です。ここからは近くで観察できます。



ダイサギがほとんどですが、チュウサギが1羽だけ混じていました。



ダイサギ



チュウサギ

ダイサギとチュウサギはよく似ていますが、全長以外にも頭の形、くちばしの長さ、脚の長さなどが違い、並ぶと違いがわかります。



土路石川の河口は完全に水没していて、サギの姿はありません。

観察できたのはアオサギ、ダイサギ、チュウサギの3種で、チュウサギは園内にはあまり飛来せず、ダイサギとの違いが比較できたのは大きな収穫でした。